

第1回ショートハンドチャレンジ1・2・3 参戦記

明治学院大学体育会ヨット部（フルードリス）

3年荻野未裕

6月11日、私たち明治学院大学のフルードリス（チーム31）は、今年から開催されることとなったショートハンドチャレンジ1・2・3に参加させていただきました。メンバーは3年の石村、荻野、矢部で、トリプルハンド部門にエントリー。私たちが今まで参加してきたレースは、どれもフルクルーでの参加であったため、3人でレースに出ることは私たちの力を試すとても良い機会でもありました。外洋学連からは、東京都市大学のアランフェス、千葉大学のくろしおも同じクラスに参加したため、学生内でも非常に盛り上がっていました。



(左から) 荻野、スキッパーの石村、矢部の3人

当日は快晴に見舞われ、エントリーを早くに済ませ、風向きやスタートはどうするか、部員間で話し合いながら船を走らせておりました。スタートはアウターからポートタックのアビームでラインを切ろうとしていたところ、下から1艇が突如現れたため、1周回ってから2列目スタートとなりました。ポートタックのクローズリーチで赤白ブイに向かい、ブイをかわし、クローズホールドで南西ブイを目指しましたが、他艇と比べて角度が稼げず、艇団の下へと流されてしまいました。そのため往路の半分辺りで、周りの艇の様子を伺いつつタックを返し、沖に出しました。その後、2度目のタックを返し、クローズいっぱいまで走り続けました。

南西ブイに接触しないよう、広めの距離を開けて回航。復路は南～南西の風のため、スピンを揚げてアビームで走り、そのままフィニッシュを目指しました。前方に、高木監督が1人で乗るテティス（FIRST40.7）、それに SALMON FOUR（J/105）の2艇が見えたものの、徐々に2艇とは差が生まれてしまいました。

フィニッシュが近づいたところで、赤白ブイの横に見えたマークを、(我々は何を勘違いしたのか) フィニッシュラインと間違えてしまうという大失敗！途中で気づき、なんとかして正しいラインを切ろうとしましたが、DNFという結果に終わりました。しかし、学生の艇だけで見ると3艇ともいい勝負ができたのではないかと感じます。今後も切磋琢磨していく次第です。



最後となりましたが、今回のレース参加にあたり、実行委員会の皆様、また応援をしてくださった皆様に対して、この場でお礼申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。3人で艇を動かすことができたという自信と共に、今後の練習にも生かしていきます。

(左写真：フィニッシュ！と思ったが…)